

ジブリパーク来園者の滞在時間延長及び熱中症対策に関する調査（概要）

1 調査結果

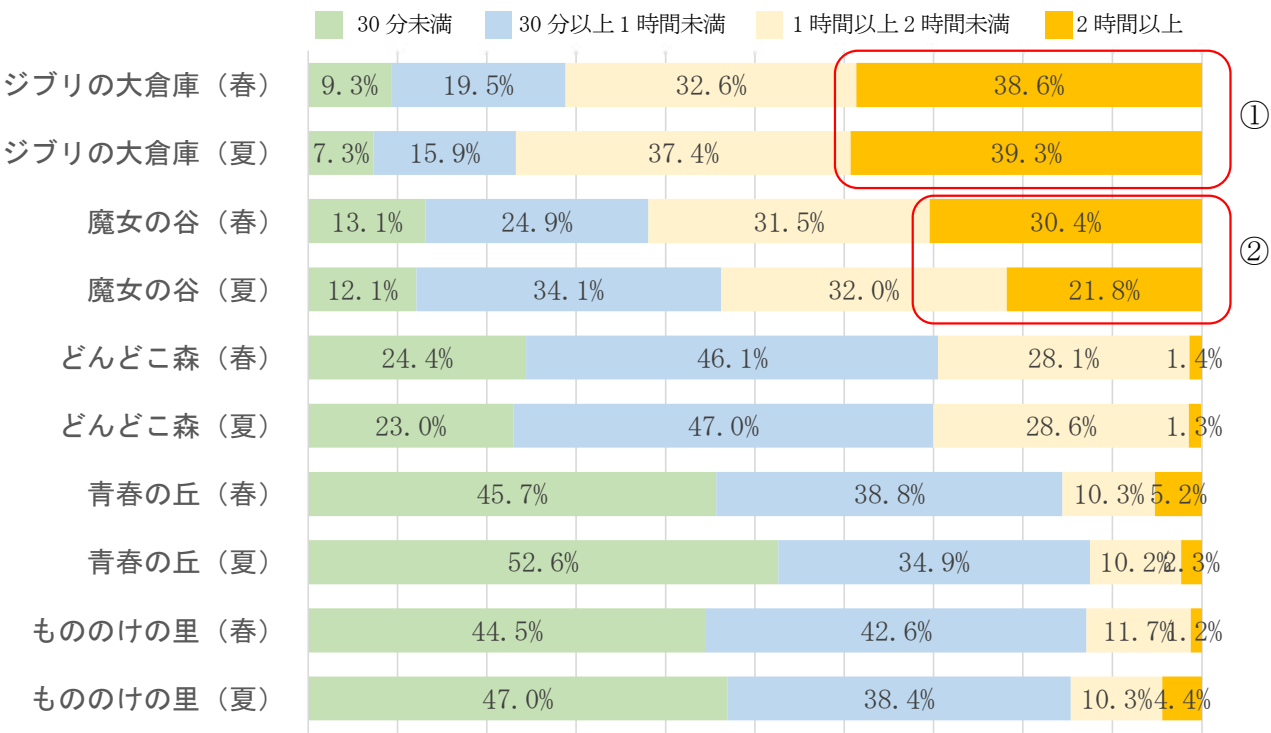
1 愛・地球博記念公園来園者「人流データ」による分析

(1)、(2)、(3) 共通

- データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
- 調査に用いたデータは au(KDDI) スマートフォンの位置情報ビッグデータ。(au スマートフォンユーザーからの同意に基づき取得し、個人が特定できない形式に加工した位置情報および属性（性別・年齢層）情報データ）
- データには 20 歳未満、及びインバウンド観光利用者のデータは含まれない。
- 分析結果の数値は全人口推計値（サンプルを、国勢調査の市区町村別・性年代別人口に基づいて拡大した値）となる。

(1) ジブリパーク エリア別滞在時間分析

春季と夏季で、ジブリパーク各エリアにおける来園者の滞在時間の割合を分析した。

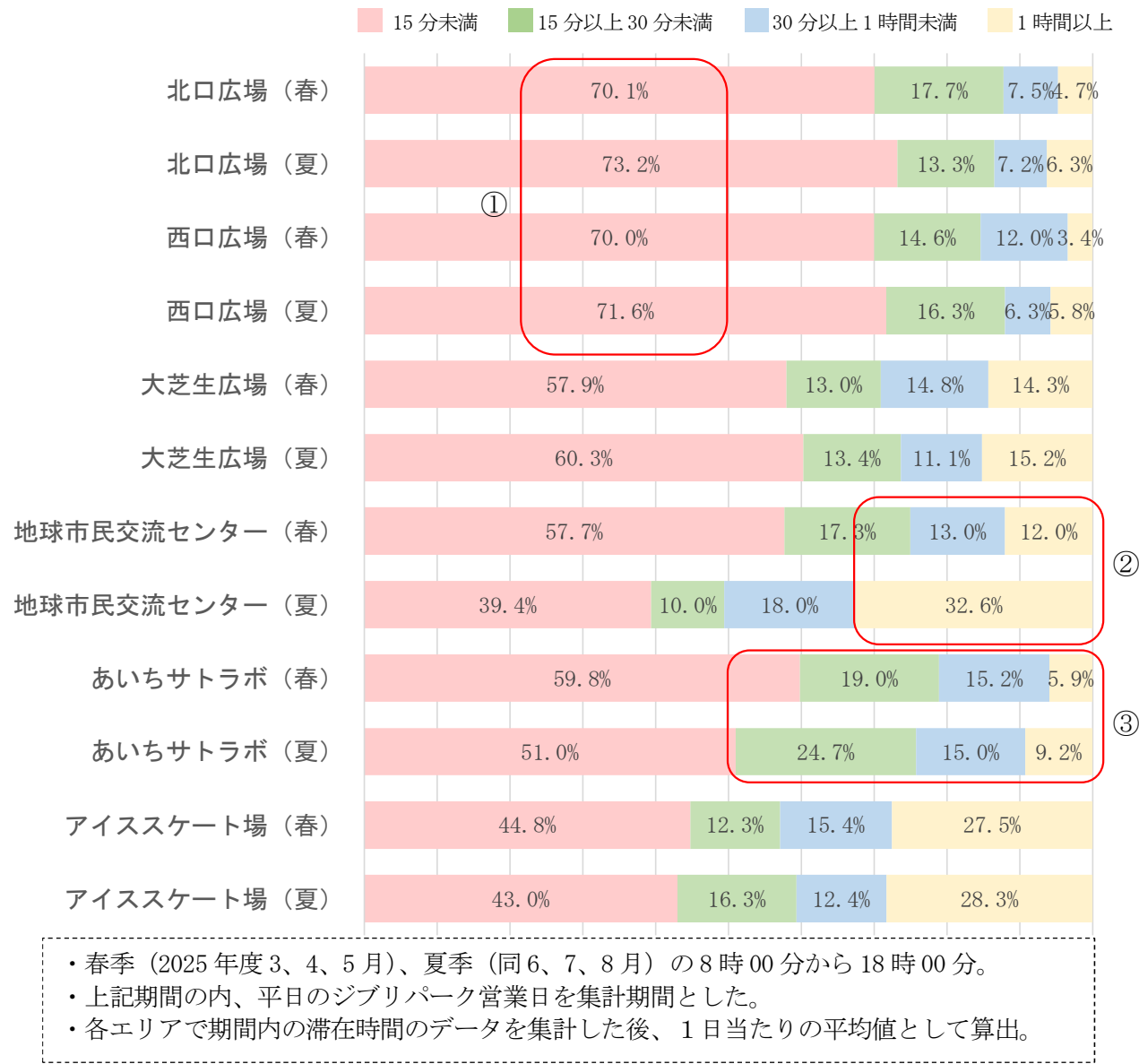


- 春季（2025 年度 3、4、5 月）、夏季（同 6、7、8 月）の 8 時 00 分から 18 時 00 分。
- 上記期間の内、平日のジブリパーク営業日を集計期間とした。
- 各エリアで期間内の滞在時間のデータを集計した後、1 日当たりの平均値として算出。

- ① 来園者が長時間（2 時間以上）滞在する割合が高いのは、「ジブリの大倉庫」と「魔女の谷」であり、この両エリアは、愛・地球博記念公園内の全施設の中でも特に高い割合であることが分かっている。
- ② 屋外エリア中心である「魔女の谷」では、夏季に長時間滞在者の割合が減少するが、「ジブリの大倉庫」を始め他のエリアの滞在時間において夏季に大きな変動がないことから、春季に比べて早期に公園から退園する来園者が増えている可能性も考えられる。

(2) 公園施設（ジブリパーク以外）エリア別滞在時間分析

春季と夏季で、ジブリパークを除く公園内のエリアで、特に利用者の多いエリアにおける滞在時間の割合を分析した。

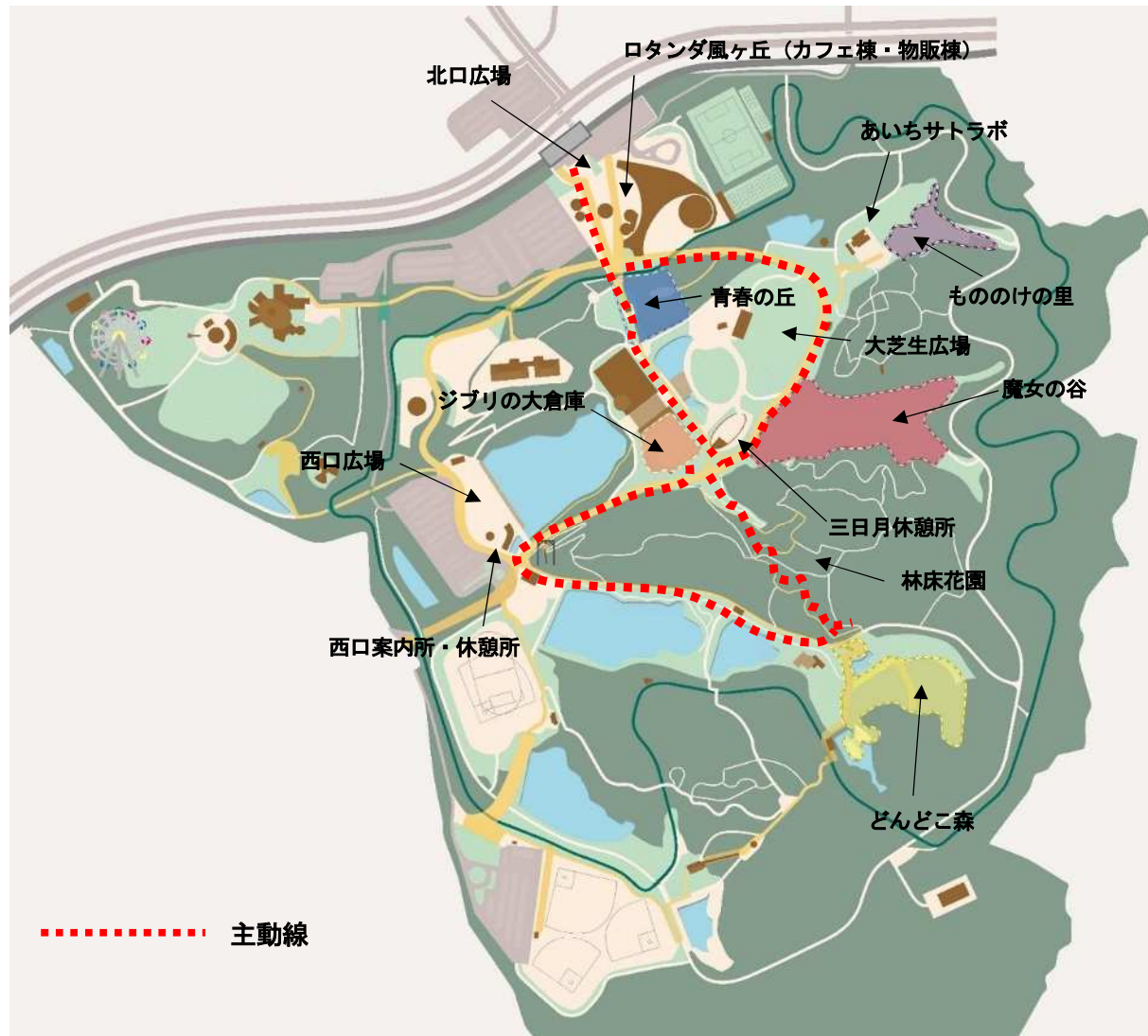


- 春季（2025 年度 3、4、5 月）、夏季（同 6、7、8 月）の 8 時 00 分から 18 時 00 分。
- 上記期間の内、平日のジブリパーク営業日を集計期間とした。
- 各エリアで期間内の滞在時間のデータを集計した後、1 日当たりの平均値として算出。

- ① 滞在時間 15 分未満の割合の高さは通過型エリアである傾向を示している。北口広場、西口広場ともに駐車場から繋がるエントランス空間のため通過割合が高くなることはやむを得ないが、多くの来園者が通るからこそ、対策により効果を見込めるエリアでもある。
- ② 地球市民交流センターでは、夏季の長時間滞在者が増加しているが、これは 2025 年 7 月から 9 月まで「鈴木敏夫とジブリ展」が開催された影響だと思われる。通常時は小規模な市民活動などによる短時間の滞在型エリアであっても、誘引力のあるコンテンツにより滞在時間を延ばすことに繋げることができる。
- ③ あいちサトラボでは、夏季において滞在時間の割合が増加している。公園管理者等へのヒアリングでは、「もののけの里」と一体化した休憩施設だと考えられ、滞在時間の延長に繋がっているのではないかという意見であった。

(3) 愛・地球博記念公園来園者の動線分析

来園者が、園内に点在する複数の施設をどのような経路で移動しているかを分析し、利用者の多いメイン移動経路（主動線）を特定した。



- ・期間は2025年4月1日から2026年3月31日の8時00分から18時00分。
- ・上記期間の内、平日のジブリパーク営業日を集計期間とする。
- ・各区域で期間内の滞在時間のデータを集計した後、1日当たりの平均値を取得する。

2 園内施設へのヒアリング等の結果から見られる特徴

- ・対象は指定管理者、(株)ジブリパーク、園内の各事業者
- ・紙面によるアンケート及びヒアリングを実施
- ・平日、休日のそれぞれにおいて、現地にてモニタリング調査を実施

(1) 西口案内所・休憩所

西口案内所・休憩所は来園者の主動線上に位置しているが、利用が限定的なものとなっている。その要因として、休憩施設としての認知度が不足していること、ジブリパーク来園者は各エリアの観覧を優先し、休憩施設の利用機会が少ないこと、飲食・物販サービスについてインパクトに欠ける、などが考えられる。

(2) 三日月休憩所

三日月休憩所は、ジブリパーク「魔女の谷」や「ジブリの大倉庫」に近接していることもあり、西口案内所・休憩所に比べれば、平日、休日問わず利用が多い。

屋外シェルターは、午前中は「魔女の谷」への入場待機場所として利用されるほか、昼食時間帯によっては飲食利用者が集中し混雑が生じることもある。午後には、主に小休止のための休憩スペースとして利用されている。

また、屋内空間は空調設備を備えていることから、昼食時間帯に限らず終日利用されている。来園者にとって休憩できる施設として高い認知度が定着していると考えられる。

(3) ロタンダ風ヶ丘（カフェ棟・物販棟）

カフェテリア（飲食）は、昼食時間帯に利用が集中するだけでなく、終日を通じて来園者の休憩スペースとして利用されている。

ショップ（物販）も、終日利用者がいるが、特にジブリパーク来園者の帰宅時間帯である夕刻時に利用が集中している。この背景には、ジブリパーク関連商品の購買需要が高いことに加え、来園者が園内周遊後、帰宅前に物販施設へ立ち寄る行動が定着していると考えられる。

(4) 園路（主動線）

園路の利用状況は、午前中は少なく、午後になると増加する傾向にある。これは、ジブリパークの午前中の観覧を終えた来園者が、他エリアへ移動するためと考えられるが、これに伴い、園内バスの利用需要も昼過ぎから徐々に高まり、平日、休日問わず、時間の経過とともに満員となる割合が高くなる。

なお、大芝生広場から「どんどこ森」方面への移動については、来園者の多くが園内バスを選択するが、満員により乗車できなかった場合、西口案内所・休憩所経由で日本庭園沿いのルートを歩くより、山道だが距離の短い林床花園内を経由する傾向がある。

- ① 来園者の動きは、大芝生広場の外周と、ジブリの大倉庫、西口広場、どんどこ森を結ぶ「8の字」を描くルートが主要な動線となっており、ジブリパーク各エリアを結ぶ園路に利用が集中していることが確認された。
- ② 滞在時間延長策と熱中症対策の効率を上げるには、主動線上または主動線に接する箇所において対策を実施することが望ましいと考えられる。

2 対策検討

（１）滞在時間の延長に資する方策

来園者の行動を「楽しむ」、「歩く」、「休む」、「消費」の４サイクルとして対策を検討

楽しむ	コンテンツの充実	既存施設におけるコンテンツの追加、リニューアル
		来園者の目的となる施設やコンテンツの新設
歩く	回遊性の向上	施設間の移動を楽しめる仕掛け
		動線上のにぎわい創出
休む	長時間滞在の安定化	休憩時間確保のための休憩施設
		天候リスクを回避できる屋内施設
消費	購買機会の拡充	飲食・物販・体験など消費できる施設の新設、増設
		既存施設における新メニュー、新商品の開発、リニューアル

（２）熱中症リスクの低減に資する方策

熱中症を引き起こす３要因である「環境」、「からだ」、「行動」の観点から対策を検討

- ・環境：気温、湿度、日射を遮断（コントロール）できるか
- ・からだ：身体を熱中症になりづらい状態に保つことができるか
- ・行動：熱中症のリスクにいち早く気づき避ける行動を取ることができるか

	対 策		対策 種別	整備 期間
環 境	屋外滞在時間を低減	屋内施設	ハード	中～長
	屋外の暑熱環境を緩和	日除けテント、ミスト、ファン(仮設舎)	ハード	短～中
	納涼イベントの開催	散水、水遊び、雪遊び	ソフト	短
か ら だ	水分・塩分補給	水飲み場・自販機の設置 飲料・塩分タブレットの販売 冷却グッズ、帽子、日傘の販売	ハード ソフト	短
行 動	行動管理・注意喚起 救護・医療体制の整備	警戒アラートやクールスポット案内 救急対応研修の実施（事後対応）	ソフト	短

（３）対策の方向性

主動線上または近接する場所において、ミストやファンの設置、納涼イベントの開催などを行うことで、安全な回遊性の確保、滞在時間の延長が見込める。

また、熱中症の原因である「気温」「湿度」「日射」を遮断するには屋内での滞在が最も有効であるため、主動線上に、休憩・飲食・物販の機能を備えた、新たな屋内施設を整備することは、滞在時間延長と熱中症対策の両方に資する取組であると考えられる。その際、新たな施設には来園者を強く誘引できる魅力（コンテンツ）が必要である。

3 地理的条件の整理

園内で、一定規模の面積が確保できるスペースのうち、来園者の主動線に近接する①大芝生広場、②あいちアートスクエア、③西口広場を候補地として比較を行った。



	①大芝生広場	②あいちアートスクエア	③西口広場
現在の 利用状況	公園の中心でありイベント等で利用者が多い	主動線に近接しているが滞在者は少ない	主動線に近接しているが滞在者は少ない
公園内の 位置付け	大勢の人が参加・交流できる広く開放的な空間	公園の歴史を活かした彫刻等を配置した空間	様々な交流スペースにも利用できる公園西口のエントランス空間
回遊性 創出	主動線の中心にあるため既に人の流れが多い	主動線に近接し、新たな人の流れが期待できる	主動線に近接し、新たな人の流れが期待できる
既存施設 との調和	代替地がなく様々なイベントの開催に影響がある	彫刻群やオブジェの撤去が必要となる	既存施設を利用しながら工事できる可能性がある